

交雑豚の脂肪蓄積，筋肉内脂肪，皮下脂肪融点および
脂肪酸組成に及ぼす止め雄の影響

畜産試験場

1 取り上げた理由

近年，海外から低価格の輸入豚肉が増加する中で，日本の国産豚肉にとっては高品質な豚肉の生産が求められている。そのため，肉豚を生産する基礎となる純粋種の組み合わせや給与する飼料内容に特徴を持たせた銘柄豚が各地で生産されている。そこで，高品質で美味しい豚肉と評価され国内では高価格で小売販売されているパークシャー種と畜産試験場で筋肉内脂肪を選抜形質として造成中のデユロック種およびそれらとランドレース種との交雑種（LDD，LDB）を用い，産肉形質と脂肪の質を含む肉質形質について止め雄の影響を検討した結果，皮下脂肪や筋肉内脂肪の蓄積，皮下脂肪融点や脂肪酸組成に対して止め雄の影響が極めて大きいことが判明したので参考資料とした。

2 普及情報

- 1) 交雑豚の枝肉形質のうち皮下脂肪厚は純粋種の影響を受け，パークシャー種（B）とLDBがデユロック種（D）とLDDより有意に厚かった（図1）。
- 2) 皮下脂肪内層と外層脂肪の融点は交雑豚は止め雄の影響を強く受け内層，外層とも脂肪融点はLDBとBがLDDとDより有意に高かった（図2）。
- 3) 皮下脂肪内層と外層の脂肪酸組成について，交雑豚は純粋種の影響を受け，LDBとBはLDDとDに比べパルミチン酸(C16:0)，ステアリン酸(C18:0)などの飽和脂肪酸が多く，オレイン酸（C18:1）やリノール酸(C18:2)等の不飽和脂肪酸が統計的に有意に少なかった（図3，図4）。また，筋肉内脂肪酸組成についても，BとLDBはDとLDDに比べ，オレイン酸(C18:1)が有意に少なく，リノール酸(C18:2)は皮下脂肪と逆に有意に多かった（図5）。

3 利活用の留意点

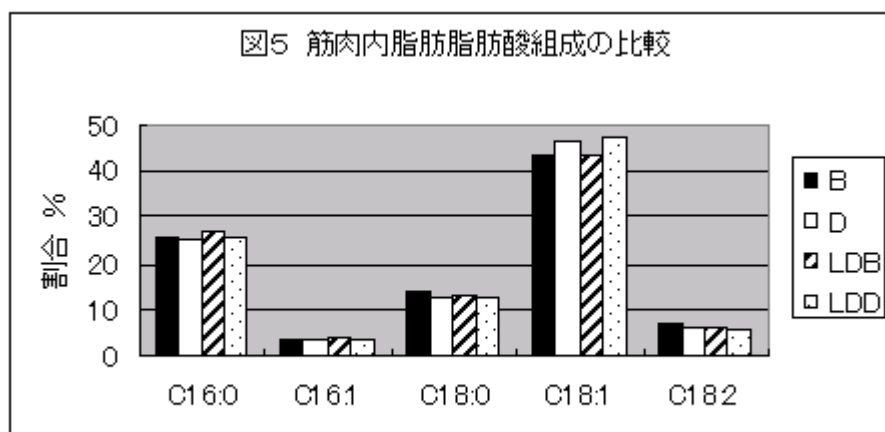
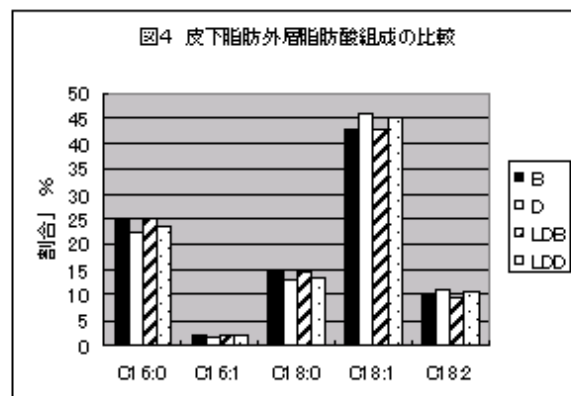
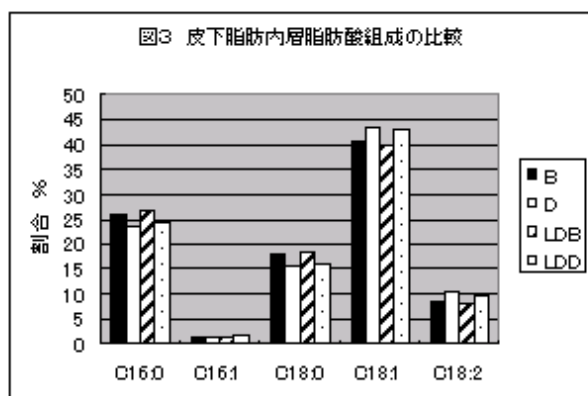
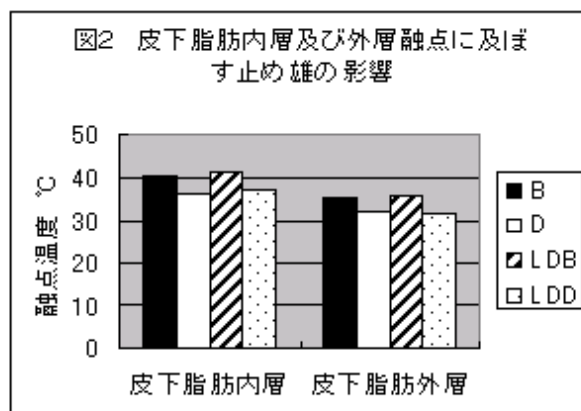
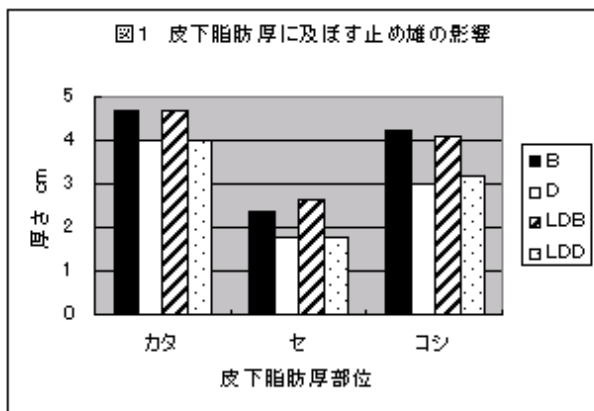
パークシャー種はエネルギー含量の低い飼料あるいは制限給餌で飼育すべきだが本試験では通常の肉豚用飼料(TDN77-78%)を使い肥育したため，パークシャー種およびLDBの脂肪蓄積が多かったことに留意。

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間：スーパーデユロックを利用した高品質豚肉生産に関する試験

平成11年 - 平成13年

2) 参考データ



3) 発表論文等

a Meat Science誌に投稿中